

# 入野小学校 校長室だより

2014. 10. 29(水) No. 24 文責：芝

## 良い言葉を使い続けると…

私の事情から書き始めて申し訳ありませんが、先々週は島根県の隠岐の島町、先週は群馬県の高崎市と沼田市へと出張続きでした。先週の朝会で「島根県の場所が分かる？」と尋ねてみたところ、6年生の方から「知っている」との意思表示らしい声が…。ですが、今週の朝会の「群馬県の場所は？」には声がありませんでした。知っている人もいるはずなのに…、と言いたい気持ちもありましたが、それを言わずに話したのが次の話。

「良い言葉を使い続けると、良いことが起こる。悪い言葉を使い続けると、悪いことが起こる。」

これは、群馬県への出張の際、冬季オリンピック金メダリストの荻原健司さんの講演を聴く機会があり、そこで仕入れた話です。「言葉には不思議な力が宿っている」という、日本に昔から伝わる『言霊(ことだま)』の考えに沿った話として語ってくれました。

荻原さんは子どもの頃、お父さんに「たのきんトリオ(若い方はご存じないかもしれない)みたいにテレビに出る人になりたい」と言ったとか。それに対し、お父さんは「オリンピックで金メダルを取れば、テレビ局の方から出てくれと言ってくる」と応えたそうです。そんなエピソードも含めて、前向きな言葉や気持ちを出し続けて競技に取り組んだという話でした。

オリンピックのメダリストというような大きなことではないのですが、私にも「良いことを言い続けると良いことが起こる」というのは「そういえば思い当たる」という程度ですが、確かにそんな経験があります。

「良い言葉・良いことを言い続けると、良いことが起こる。」

朝会では、このことを最後に二度重ねて子どもたちに言いました。子どもたちに「そうであって欲しい」という願いからです。そして、私たち大人も「そうありがたい・そうであって欲しい」ものですね。

## 違う雰囲気(?)の給食

28日の給食は、子どもたちも少し異様な雰囲気を感じ、緊張しながら食べたかもしれません。

土佐清水市の教育委員会から「給食の施設を見学させてほしい、配膳の様子・給食の様子を見学させてほしい」という依頼があったからです。そのため、この日は何人もの大人たちが見守る中で食べることになりました。



いつもと違う様子に戸惑ったのは子どもたちだけでなく、何人もの大人たちが見守る中で準備することになった職員も「緊張するう」とこぼしながらの作業となったようです。関係の皆さん、お疲れ様でした。

なお、こんな視察がもう1回あります。今度は土佐清水市のPTA連合会の方々です。

子どもたちにも職員にも申し訳なく思いますが、土佐清水市の学校給食の取組に役立つことですので、協力をお願いする次第です。

【追記】視察団も給食を試食したのですが、「おいしい!」と絶賛でした。